

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業)
授業科目名：子ども家庭福祉 英語表記：Child and Family Welfare ナンバリング：2102		単位数：2単位 (半期) 講義	担当教員名：山田耕平 担当形態：単独
科目/系列	/保育の本質・目的に関する科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/子ども家庭福祉		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解できる。 2. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解できる。 3. 子ども家庭福祉の現状と課題、動向と展望について理解できる。			
【授業の概要】 子ども家庭福祉の意義、歴史の変遷、制度、現状、動向等について自ら課題意識を持って学び、アクティブ・ラーニングにより、専門職としての知識を定着させる。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			○
【授業計画】 第1回：子ども家庭福祉の理念と概念 第2回：子ども家庭福祉の歴史の変遷と諸外国の動向 第3回：子どもの人権擁護 第4回：子ども家庭福祉の制度と実施体制 第5回：子ども家庭福祉の施設と専門職 第6回：少子化と地域子育て支援 第7回：母子保健と子どもの健全育成 第8回：多様な保育ニーズへの対応 第9回：子ども虐待・ドメスティックバイオレンスとその防止 第10回：貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応 第11回：社会的養護 第12回：障害のある子どもへの対応 第13回：少年非行等への対応 第14回：次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進 第15回：地域における連携・協働とネットワーク 定期試験：筆記		【授業時間外の学習】 ・毎回の講義を必ず復習し、学びや気づきを整理すること。(毎回1時間程度) ・ディスカッションでは、自分の意見を言葉にして表現する技能が求められる。自分の考えを述べられるように、日常から表現力を磨いておく。	
【授業の方法】 講義、ディスカッション。 Google Classroomを用いて授業感想や質問を受け付け、随時フィードバックを行う。			

【テキスト】	
『新基本保育シリーズ 子ども家庭福祉』公益財団法人児童育成協会監修 中央法規出版	
【参考書・参考資料等】	
授業において適宜プリント資料を配布する。	
【学生に対する評価】	
授業参画度（50％）、定期試験（50％）。 ルーブリックを活用し、総合的に評価する。	
【履修上の注意】	
受講にあたっては、テキストや参考文献等を用いて事前事後の学習を行うこと。	
実務経験の有無：有	実務経験：臨床心理士・公認心理師・精神科クリニック・生活困窮者支援 ・学生相談・幼稚園巡回相談 等
【実務経験を生かした教育内容】	
切り口の異なる多様な現場での実践経験を活かし、具体的な事例をもとに授業を行う。	